

鳥取県「令和の改新」県民会議 連携と実践の促進に向けた幹事会

日時：令和7年5月27日（火）

午前10時30分～正午

場所：県庁講堂（オンライン併用）

<開会（前田政策戦略局長）>

失礼いたします。皆様揃われましたので、それではこれより会議を開催したいと思います。私本日司会をさせていただきます政策戦略局の前田と申します。本日はよろしくお願いいたします。それでは着座にて失礼いたします。

それではただいまから、「鳥取県『令和の改新』県民会議、連携と実践の促進に向けた幹事会」を開催いたします。本日はご多用の中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

開会にあたりまして、統轄監の中原より挨拶をいたします。

<開会あいさつ（中原統轄監）>

皆様おはようございます。

本日は、「鳥取県『令和の改新』県民会議、連携と実践の促進に向けた幹事会」にご参加をいただきまして、ありがとうございます。本当に皆様お忙しい中、本日のご参加いただきましてありがとうございます。

本日はですね、この会場とオンライン、56団体の皆様にご参加をいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

ご案内の通り、本年1月ですね、「令和の改新」県民会議の初会合を開催いたしました。これは人口減少に歯止めをかけて、地方創生を実現するために開催したものでございます。本日ご参加の団体の多くの皆様からですね、様々なご意見をちょうだいしました。その後の状況は、後程ご説明をさせていただきたいと思っております。

本日は、さらに連携と実践の促進という観点からですね、意見やアイデアを伺いまして、それを共有していく、そういうことを目的としまして、幹事会という形で開催をさせていただきます。より実践的な意見交換ができればと考えております。

昨年12月に国から地方創生2.0の基本的な考え方が示されました。その中では、単に人口減少、人口増加を目指すのではなく、地方の多様な資源や強みを生かして、様々な、例えば産業を創出したり、魅力的な地方を創造したりするといったことが重要視されております。我々はですね、鳥取県から地方創生2.0を実現しようと考えているわけですが、その実現のカギとなるのは、本日ご参加いただいております、様々な分野の皆様の現場に根差した、視点や行動力であると考えております。特に、世代や性別を越えた連携共生、これが、持続可能な地域づくりの原動力になると考えております。

本日はですね、多様な分野の皆様による議論をいただきまして、それが力強い地域連携ですとか、実効性のある施策へ繋がっていけばと期待をしているところです。本日は皆様の積極的な参画を是非ともお願いいたします。それでは、本日どうぞよろしくお願いいたします。

＜進行（前田政策戦略局長）＞

ありがとうございました。それではこれより議事に移りたいと思います。1つ目の議事、県の動き等につきまして事務局より説明をいたします。

＜事務局説明（西川令和の改新戦略本部参事監）＞

私、西川と申します。着座にて説明の方させていただきますと思います。

資料は、お手元にお配りしておりますが、ホチキス止めの資料でございます。鳥取県「令和の改新」県民会議 連携と実践の促進に向けた幹事会という、資料1枚めくっていただけますでしょうか。

そうしますと、1ということで県の動き等ということにつきまして、概要をご説明いたします。

まず、4ページでございます。「令和の改新」県民会議でございます。初めてご参加の方もおられますので、この県民会議の位置づけをご説明いたします。本県の令和の改新とは、先ほど中原の方から話もありましたが、そこに赤字で記載しております、究極の目標は、人口減少に歯止めをかけて地方創生を実現することというのを目的として、若者女性にも選ばれ、誰もが安心して住み続けられる地域を作るという取り組みでございます。この県民会議は、産官学勤労言師などの多様なステークホルダーがプレーヤーとして参画し、意見を交わし、同時に行動していく場、としております。今年1月に行いました県民会議の初会合での主な意見を、4ページの下半分に記載しておりますし、丸の中に、若者、女性を表示しておりますのは、発言がありました団体を表示したものでございます。

5ページの右側に記載しております3つの令和の改新プロジェクトチーム、これは県庁内の関係部局によります部局横断のプロジェクトチーム、PTでございますが、4月に第1回会議を開催いたしまして、課題や連携方策などについて確認等を行っております。PTの3種類の色分けは4ページの意見の種類と、これらを取りやすくPTという意味で色を同じにリンクさせてございます。ただ、順番が前後いたしますと5ページ左側にありますが、年初の1月に立ち上げました、各団体のトップによります県民会議を表し、本日お集まりいただきました、実務者によります、県民会議の幹事会がその中の赤の四角囲みでございます。県民会議とPT、外部の会議体などが連携し県を挙げて課題解決に当たって参りたいと存じます。さらに、後程鳥取大学様からお話がありますが、これまでも鳥取大学と本会議のメンバーに入っただき、ご協力くださっております。鳥取大学の、より主体的に、本県と一緒に取組んでいく、というふうに力強くおっしゃってくださっていますので、これまで以上に連携を固めて実施して参りたいと存じます。

6ページから8ページまで3つの県庁PTの活動状況等でございます。6ページの、若者女性に魅力ある地域づくりPTでございます。人口減少対策と男女協働によるウェルビーイングの推進をテーマとしております。メンバーからは、話彩や（はなさいや）事業っていうのを倉吉でやっていますが、これまで以上に各部局の意見交換会の場等と連携し、現場の声を収集していく」などの意見がございました。こうした「話彩や（はなさいや）事業の拡充」などは、今すぐにも実施可能なことでございまして、6月議会に所要経費を

提案することとし、併せて後ほどご説明いたします、「第2世代交付金」を充当するため、国へ交付申請を行うこととしております。

7ページ、8ページはその他の2つの庁内PTの状況を記載しておりますので、ご覧いただければと存じます。

9ページに進みいただきまして、9ページでございます。ここは、「令和の改新」の方向性でございます。繰り返して恐縮でございますが、目的は赤字で記載しております「人口減少に歯止めをかけ、地方創生を実現する」でございます。真ん中の二重線の四角囲みの中にありますように、地方創生の実現には、すべての県民の皆さんがプレーヤーとして参画いただくことが重要であります。また、黄色い枠内でございますが、関係者の行動を後押しするため、新たな国の交付金、第2世代交付金を活用していくこととなります。

10ページでございます。第2世代交付金の概要でございます。赤線を引いておりますが、この交付金は多様な主体、産官学金労言士などが参画し、計画策定から実施まで関わっていただくことが条件になって、交付されるものということがポイントでございます。また、ソフト事業以外にも下に写真を並べておりますが、拠点整備ですとか、関連するインフラ整備のハードにも利用できます。

続きまして次、11ページ12ページでございます。この第2世代交付金の第2回申請予定事業でございます。経緯でございますが、本来ですと、この県民会議での皆様のご意見等を踏まえ、計画作成を行い、まずは第1回目の申請をしていくものでございます。ただ、この交付金自体はですね、昨年石破政権が誕生し、総理肝いりで創設された交付金でございます。国の詳細な制度設計に時間を要したこと、さらに、国の当初予算の成立が4月にずれ込んだことなどから、1回目の申請は、1月の県民会議での意見なども参考にいたしながら、執行部で計画策定をし、交付金を申請、既に交付決定をいただいているところでございます。その事業概要は、机上配布しております資料に掲載をしております。後ろの方に置いておりますので、またご覧いただければと存じます。このことについてご共有が遅くなってしまうことをこの場をお借りしてお詫び申し上げるところでございます。今回の第2回申請でございますが、資料に記載しております事業他を申請予定でございます。事実上の申請期限となりますのは実は来週の6月3日でございます。これに向け、同時並行で作業中でございます。本日の会議では特に、この申請予定事業につきまして、資料ではあまり詳細がお示しできてないところでございますが、忌憚のない意見をご意見いただければと存じます。また、ここにはないものでも追加すべき事項など、幅広い観点で建設的なご意見をちょうだいできればと存じます。可能なものにつきましては本日の午後からは、狭い部分の作業にどんどん返していきたいと考えているところでございます。

13ページ、今後のスケジュール案でございます。16ページの参考でつけております資料の5、今後の進め方というところをセットにしてご説明申し上げますが、6月に国が地方創生2.0の基本構想を策定されます。随時、県の各PTにおいて活動を進めます。皆様方のお知恵お力をお借りして一緒になって柔軟に進めて参る所存でございますので、ご協力いただきますようお願いいたします。秋頃には、PTで一定の取りまとめを行い、来年の事業に向け、第2回「令和の改新」県民会議で取り組み方針の確認を行う予定でございます。また、先週になりますが、22日の国の会議で配布されました基本構想案というのに

よりますと、基本構想をさらに実施段階に進めるため、年内に、かなり国の総合戦略というのを策定されるようになっております。地方においても、各ステークホルダー等を巻き込み、地方版の総合戦略の主体的な検証、見直しを行うというふうにされておまして、13 ページ下のところには、時期未定と記載しておりますが、皆様方と一緒にね、この総合戦略の見直し作業を行っていく場合が想定されますので、改めてご協力をお願いいたします。

15 ページでございますけど、鳥取県人口の推移と将来展望でございますが、これは参考資料でございます。本県人口が 2025 年 1 月時点で 53 万人を割り込みまして、直近 5 月 1 日現在が 52.6 万人まで減少してきております。11 年前に、地方消滅という本も出版されました。増田寛也先生の「日本創成会議」の推計、グラフではグレーの線よりは、本県の人口は、各種施策を展開することによりまして、2024 年時点では当時の推計値より 1.3 万人上振れしているところではございます。ただ、本県の推定でございます、県の人口ビジョンの値、緑色の線でございますが、これよりは人口が大幅に減っているところでありまして、この「令和の改新」県民会議で、人口減少に歯止めをかけて、繰り返しになります。が地方創生を実現していかなければならないということでもあります。

16 ページでございます。地方創生 2.0 の基本構想骨子（案）の抜粋は、これまでご説明申し上げた内容でございます。参考添付でございます。

以上、駆け足でございますが、私からは以上です。

< 進行（前田政策戦略局長） >

以上が県の動き等のご説明でございました。また後程ご意見とかご質問等ございますが、意見交換の場でいただければと存じますので、ひとまず議事の方、進めたいと思います。

それでは議事の 2 番目といたしまして、連携による取り組みの方向性等の意見の発表ということでございます。事前に資料ちょうだいをしております、5 名の皆様よりご発言をいただきたいと存じます。大変恐縮ですが、本日、大変多くの方にご発言をちょうだいしたいと思っておりますので、1 人当たり、だいたい 3 分を目安にご発言をいただければと存じます。大変恐縮でございます。

それではまず、お 1 人目でございますが、鳥取大学の清水様より、よろしくお願いをしたいと思います。

< 鳥取大学 清水地域未来共創センター長 >

皆さんおはようございます。鳥取大学 地域価値創造研究教育機構地域未来共創センターの清水と申します。よろしくお願いいたします。

それではちょっと着席させていただきますけれども、鳥取大学では、解決すべき課題というか、地域課題というのは、我々も開学以来、取り組んでおりますけれども、課題、時代とともに変わってきますし、また、特に複雑化ですとか、深刻化しているかと思えます。そういったことで、地域課題解決力の強化ということを目指して、この 4 月に、地域未来共創センターという組織を立ち上げております。この組織では、資料の黄色の部分ですね、取り組み方法ということで示していますが、イノベーター育成、担い手育成、課題

解決、リカレント教育と、4つのプログラムを用意して取り組んでいくことにしておりますけれども、この活動の前提となりますところとして、県民の皆さんのニーズですとか、或いは知恵、協力を、全体として実施していこうというものです。ですので、今回県民会議が発足したということで、我々の方も、地域連携プラットフォームというような構想を考えていたんですけれども、まさに方向性ですとか目的を一致するような組織ができましたので、この県民会議で議論をさせていただいて、共創センターの取り組みにつなげていこうと考えております。こうした共創センターがワンストップの大学は1つの窓口となりますので、ぜひ皆さんのご意見を反映させていただければと思っておりますし、付属の資料をちょっと見ていただきましょうか。後ろの方に、大学の補足の資料を付けておりますけれども、こちらのセンターの構成図ということで、学長が機構長を務めてリーダーシップを発揮していくというような構図となっています。

次のページに事業概要ということで今申し上げた4つのプログラムを示しているんですが、この中で、部会というようなことが書いてありますが、幹事会の中でもいろいろな形で、皆さんが関わるような場所を作ることですけれども、それぞれの事業に応じて、皆さんに、全員という形ではないかと思えますけどもお声掛けしますので、ぜひご意見ですとか、知恵、力をお貸しいただいて、この大学も、皆さんの課題を解決に向かいたいと思えますし、大学が地域にとって必要とされて、大学も存在感を示していきたいと思っておりますので、ぜひ本当にこの県民会議のスタートというのは我々にとっても、願ってもないことですので、皆さんのご協力を得たいと思っております。ぜひご協力をお願いいたします。ありがとうございました。

<進行（前田政策戦略局長）>

清水さんありがとうございました。

それでは続き、続きまして経済同友会の田淵様、お願いをいたします。

<鳥取県経済同友会 田淵未来の人材育成委員長>

失礼いたします。県経済同友会でございます。

今回代表して参加させていただいております田淵金物の田淵と申します。よろしくお願い申し上げます。それでは簡単に補足をさせていただきたいと思いますが、今現在私共、経済同友会の方では、主に私の担当してる委員会の方で鳥取県教育委員会さんと連携して、特に高等学校と企業側も、関係性をより深めていて地元に着する若者をより増やしていくことが、今後の中長期的に見た鳥取県の経済界なんか、非常に重要なことではないかというところで、出前で、企業から講師を派遣したり、その他、県教委さんのイベントに参加させていただいたりするのですが、そういった形で活動をさせていただいております。それでこちらの内容が、会員から意見を集約したものではありますが、その中で1つ注目していただきたいのが、企業団体の誘致に関して民間の意見を吸い上げていただいて、官民連携でこちらの取り組みをしていただきたいなというところが注目していただきたいところでございます。以上です。よろしくお願いします。

<進行（前田政策戦略局長）>

ありがとうございました。それでは続きまして、山陰合銀の前田様、よろしくお願いいたしますします。

<株式会社山陰合同銀行 前田地域振興グループ長>

山陰合同号銀行地域振興部の前田と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたしますします。座らせていただきます。

では地域金融機関の立場から解決すべき課題ということで少しご提言なんですけども、我々、記載の通りですね、地域で新産業といいますか、新たな産業の創出をし、取り組んで参りたいというふうに考えております。先ほどの基本構想の方でもございますけども、人口減少社会において地域経済、持続的に発展させていくためには地域でイノベーションの創出が重要ということが言われておるところでございまして、サービスの高付加価値化が取り組まれておるところでございます。我々、そういったところに向けまして、いろいろなやり方あるかなというふうに思ってますけども、これまでですね、域内の連携というのはたくさんあったかなと思いますが、域外との連携ですね、こういったところを1つポイントとしてやって参りたいなというふうに考えております。それによって、オープンイノベーションで、今回のテーマとさせていただきますのが首都圏のスタートアップさんとの連携によるオープンイノベーションの創出ということを現在取り組んでおるところでございまして、3月のところで、我々も地域の事業所の皆様と首都圏のスタートアップの皆様とのイベントというのも開催させていただいたところがございますが、そこから幾つか既に連携事例というのも出てきておりますので、こういったことを、地域の皆様と、一緒になって取り組んでいくことで、地域に合った産業の創出ができればいいなというふうに考えておるところでございます。簡単でございますが以上です。

<進行（前田政策戦略局長）>

ありがとうございました。続きまして、日本労働組合総連合会鳥取県連合会の松本様よろしくお願いいたしますします。

<日本労働組合総連合会鳥取県連合会 松本副事務局長>

本日は、Web会議で大変申し訳ありません。連合鳥取の松本でございます。

私どもの方では、第1回の会議の方で議論の論点等、趣旨が伺えましたので、そこへの補足というようなことで、本日も提案を申し上げるものでございます。私ども連合ととりも様々な場面で、いわゆる多様性ですとか或いはジェンダー平等の推進というものを進めておるところではあるんですけども、その中でやはり、地域社会であるとか、家庭というところでも、女性の負担というのがなかなか解消されていないという課題も浮かび上がってきているというところがありまして、現在いろいろ行政のほうで取り組まれている施策というものに関しても、いわゆる応援型のものが多いように見受けました。

そこをもう一步進めて、男性自身の意識が変わる、行動が変わるということへのアプローチがあってもいいんじゃないかなということを補足したいというふうに思いまして、記載の内容を提起させていただいた次第です。少し施策の中でもって、男性が積極的に家庭の中に入っていく、そこでご自身の人間的な成長を得て、また社会に戻った場面で活躍し

ていただくというようなことがうまく回っていけばいいんじゃないかなというふうに思い、提案をさせていただいたものでございます。以上です。

<鳥取県農業協同組合中央会 松田調査役>

J A鳥取県中央会の松田優子と言います。

連携ということで昨年、J Aが経営していましたスーパーが突然、地域から消えました。このことによって、いろんな地域住民から、もちろん組合員ももちろんですけども、色んな方々から色んな声を聴きました。スーパーがなくて困る、買い物ができないんだということで、いろんな声がありました。私たちJ Aとしても本当に残念なことがあるのですが、一体、何ができるんだろうといういろいろ考え、考えさせられた1年でした。何ができるのだろうということで、私たちは協同組合なんだ、もう1回原点に帰り、この3月に鳥取県さんの立ち会いのもと生協連さんと包括連携協定というものを結びました。そのことによってとても活動がしやすくなり、今生協さんがやっておられます、夕食宅配、夜届く弁当なんですけれども、その夕食宅配をぜひJ Aの組合員にも届けたいということで、今あるものにJ Aも協力してやっていこうと取組が今進められています。それとJ Aが今持ってます葬祭事業の部分、生協さんは、ちょっとその部分が弱いところがありまして、そういう部分をJ Aと一緒に連携してやっていこうかというような、いろいろ同じ思いを持った協同組合の組織が今活動を進めているところです。

ちょうど今年、2025年が、チラシがあるんですけれども、国際協同組合年という年です。これは、国連が定めたものですが、2012年に引き続き2回目の国際協同組合年ということで、今ここにおられます漁協さんですとか、森連さんですとか、同じ協同組合の組織の方々と一緒にいろんな活動を展開していこうと考えております。その1つがこのチラシですけれども、初めて協同組合祭りというものを10月11日に湯梨浜町で開こうと考えておりまして、これも地域の方々に来ていただき、いろんなイベントをやっていこうと思っております。私たちは、やっぱり目指すものは、豊かでよく暮らしやすい地域社会の実現なんだということで、協同組合として、何かできたらいいなと思いながら、いろいろ考えて、展開をしているところです。ぜひ皆さんこの10月11日、夢ひろばで雨が降っても屋根がありますのでぜひ参加していただけたらなと思っております。

<進行（前田政策戦略局長）>

改めてご発表いただきました皆様ありがとうございます。続きましてここから、出席者の皆様による意見交換の時間とさせていただきます。本日は実務者の皆様による連携と実践の促進ということを主眼にしておりますので、ぜひこういった部分で連携ができるのか、連携したいとか、何か効果的なアイデアがございましたらぜひご披露いただければと存じます。時間関係上、お1人様2分程度を目安でお願いをしたいと存じますのでよろしくをお願いいたします。順不同で恐縮ですが、まず口火を新日本海新聞の井上局長様お願いできればと思います。よろしくお願いします。

<新日本海新聞社 井上編集制作局長>

ご指名いただきましてありがとうございます。新日本海新聞社の井上と申します。よろしくお願いいたします。

私が皆さんに提案させていただきたいのは、やはり駅を核としたまちづくりの強化という部分です。今、鳥取市さんが、鳥取駅前の再整備を発表されておられますが、何かちょっとイメージが実はよくわからない、よく読者の方からもどんなことするんですかって聞かれるのですが、ちょっとよく見えてこないところがありまして、やっぱり鳥取市さんだけに任せていてもいけないんじゃないか、民間、それから鳥取県さんもいろんなところがアイデアを出し合って一緒に作っていくべきじゃないかと思うんです。各地域を見ますとやはり駅の周りに若者が多い地域というのは活気があるんです。ですので、そういったことを図っていくべきじゃないかと思ってます。私が提案したいのが、鳥取温泉がありますけども、これは非常に場所もわかりづらいというか、あんまり観光客の方によく知られてなくて非常にもったいないです。県庁所在地の市街地に湧く温泉であるのにもかかわらず、正直言って秘湯と化していると僕は言ってるんですけども、これをもっと活用すべきじゃないかと思ってます。温泉旅館もいくつか廃館になったまま放置されていますし、民間の銭湯4軒あるのですが、あまり活用されてないのかなと思ってます。ここに力を入れていくべきじゃないかと思ってます。仕掛けを1つ1つやっていくことで町を周遊、市街地を周遊する仕掛けを作ってお客さんと呼び込む、若い人にも見てもらうというような仕掛けを作っていけたらいいんじゃないかなというふうに思ってます。

またちょっと別の観点ですけども今、よその地域から人を呼び込むという取り組みを鳥取県さん、一生懸命やっておられますけども、都会と地域の2拠点での暮らしっていうか2拠点生活っていうのがかなり若者にも受け入れられていると聞いてます。都会と地方の2拠点だけでなく地方の中での2拠点生活というのも出てくると思います。これだけ空き家が増えて、ご両親が例えば病気になって介護しないといけないという方も出てくると思うので、こういった暮らし方に対する手当、補助といいますか。そういったところに力を入れていけば、もっと暮らしやすい地域っていうのができてくるのではないかなと思います。

もう1点だけちょっと言わしていただきたいのが、人材が今これだけ流動化してる中で、僕も民間企業に話聞いてみても、人が集まらないって言われています。特にリタイアされたシニアの方ですとか、或いは副業をする人材っていうのがもうちょっと各企業に入りやすいような仕掛けっていうのをまず、生めないかというふうに思っているところで。まだまだ活躍できる方がシルバー人材の方で、お仕事探しても何かもったいない話なので、そういった方をどんどん増えていく地域っていうのを目指していくべきじゃないかというふうに思います。

<進行（前田政策戦略局長）>

ありがとうございます。それでは続きまして看護協会の植木様いかがでしょうか。

<鳥取県看護協会 植木専務理事>

鳥取県看護協会の専務理事の植木と申します。

私の方からはスライド番号 11 にございます、第 2 世代交付金の中の若者、女性にも選ばれる鳥取づくり・フェムテックを活用する女性が働きやすい環境づくりの実施について、賛同のご意見を申し上げたいと思います。先日、日本海新聞様の方の記事を私も読ませていただいたんですけれども、このたび、この事業は、若手タスクフォース、若手の皆様からの提案と聞いておりまして、当事者目線からの非常に必要な施策であると感じているところでございます。アンコンシャス・バイアスの解消につながる県民運動の一環として、男女の相互理解推進にフェムテックというものを活用していくということでございますけれども、女性特有の健康課題である月経に伴う身体的な苦痛ですとか、不快感、また行動制限による精神的な苦痛や煩わしさというものも理解を進めていくことは、女性が働き続けることができる職場環境づくりにとても必要なことだというふうに思います。男性だけではなくて、実はこれは女性同士であっても、その程度が多様なためにそのつらさを理解することが女性同士であっても難しいというふうに言われておりますので、やはり対象は男性だけに限定せずに、広く県民運動として展開していくということは必要な施策ではないかなと感じております。また生理休暇の取得を推進するために、県内の企業様におかれまして、すでに生理休暇という名称ではなくて、ウェルネス休暇と名称を変えて、変更して取得の促進に取り組んでいらっしゃる企業の情報もいただいているところであります。これらのフェムテックの活用ですとか、それからまた別に、成育基本法に基づいてこども家庭庁が進めているプレコンセプションケア、若い世代の健康づくりといったことの施策につきましましては、やはり職域、産業保健との連携が欠かせないと思っております。地域にいる、私達、専門職がなかなか働き盛り世代の方に日中はお会いすることができません。ですので、地域・職域連携事業の国のモデル事業ですね。令和 5 年度、6 年度と、鳥取県は国のモデル事業の 2 ヶ所のうちの 1 ヶ所ですね、国保連合会、協会けんぽ鳥取支部、湯梨浜町さんがモデルとなり取り組まれました。そのような事業の成果もございますので、このような成果をこれらの事業推進につなげていければ、横展開ができればより効果的な事業になるのではないかと考えております。

< 進行（前田政策戦略局長） >

ありがとうございます。続きまして、社会福祉協議会の朝倉様よろしいでしょうか。

< 鳥取県社会福祉協議会 朝倉事務局長 >

鳥取県社会福祉協議会の朝倉と申します。よろしくお願いいたします。

私からはいろんな事業の提案というよりは、色々な県民の皆様、住民の皆様からの相談を受ける、いろんな施策をつないでいくという立場から少し話ができればと思っています。今回の県民会議のテーマ・キーワードとして安心して住み続けられるというのがございます。これを実現する 1 つの要素ですが、いろんな生活の中で困ったこと、大なり小なりみんな何かを抱えているわけですが、そういったときにやっぱり相談できる環境や解決に向かえる環境があるということが大切だと思います。ただ、今の社会の中で、生活課題が本当に複雑になってきていて、私たち福祉の現場で相談支援をやっている、福祉の制度だけで対応できるという状況ではなくなっていることは、皆さんと共有できることだと思います。そんな中でもやっぱり福祉制度、事業、サービスも本当に大きく様変わりをして

いて、本当に相談の窓口も増えてきています。専門特化をしていくという意味では、とてもいいことでもある一方で、縦割りをなくそうと言いながら、たらい回ししやすくなってしまってる現状があるのではないかということも非常に最近感じていて、県社会福祉協議会としても、今県と一緒に市町村域での体制づくり、仕組みづくりというのを一緒に支援をしているところでございます。何を駆使しても、どんなにみんなが集まっても一人一人が抱える課題をすべて解決できるかって言ったら、とても難しいこともありますし、実際、相談におみえになる方やいろんな方と出会う中でも、話を聞いて欲しい誰かと話をしたいということでずっと繰り返しにおいでになる方ですとか、本当に困ってらっしゃるのかもしれませんが、相談をするだけけれども、いざ何か進めていこうかとするときに、人に関わってもらおうとか変化をするっていうことにとっても抵抗のある方も、生活弱者と言われる方が、中にはいらっしゃるということだとか、もう1つ、「大変だね、頑張ってるね」っていう言葉を欲しい、そういった言葉をもらうことでやっぱり自分の存在感を見いだす人たちもいるんだということをぜひ皆さんにも知っていただきたいと思います。

その根底に、自己肯定感の低さというのをとても感じます。自己肯定感の低さ、承認欲求の強さといいますか、相反するものは、イコールな部分も一緒に感じますが、コミュニケーションの難しさっていうことも非常に感じますし、育ちの中での経験がとても大事ななと思っています。先ほど高校生の体験という発言もありましたけれども、子供のときから親子の関係もつむぎながら地域と繋がっていくところ、いろんな方々等と場づくりをしていく必要があると思っています。本当に連携というよりも、意識の共有ということをこの場でお願いできればなというふうに思いますし、様々な取り組み、今日もご提案ありますけれども、それにのっていけない人たちがいるということも、ぜひみんなで共有しながら、その人たちをどうフォローしていくのかとか、いろんなタイプの方々がきっかけをどう作っていくのか、見つけていくのかということも一緒に考えていければありがたいなというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

<進行（前田政策戦略局長）>

ありがとうございます。それでは続きまして、若者活躍局の礒江さん、音声繋がってますでしょうか。

<若者活躍局 礒江様>

初めまして、とっとり若者活躍局の礒江と申します。オンラインで本日は失礼します。

私は2点思うことがありまして、スライドの11ページにあったように若者女性にも選ばれる鳥取づくりっていうことで、先ほど、看護協会の植木様が申されたようにフェムテックを活用した女性の働きやすい職場環境づくりの推進ってことで、私の職場にも生理休暇っていうのはあるんですけど、どうしても有給じゃなくて無給になってしまうので、最終的には有給休暇を使って休まなければならないっていうふうになってしまうので、そこは鳥取県独自のなんか条例とかではないんですけど、有給にできるようにしようとかできてもらえたらいいかなと思うところです。

もうひとつは、私はUターンを経験していて大阪の方に住んでいた時期があったんですけど、やっぱり帰ってきたくなる鳥取の本来の姿ってどうなんだろうって最近よく考えま

す。大阪にはやっぱり何でもあるので、便利な暮らしを感じていて、鳥取に帰ってきたら、なんでもあるということに慣れてしまってるから、鳥取は何もないっていう感じがよくあったりして、帰ってきたくなる鳥取というのを他の人もどういうふうに感じてるのかなっていうのを、県外に住んでる大学生だったりとか社会人の方とかにもご意見を求めるということがあってもいいのではないかと感じました。

<進行（前田政策戦略局長）>

それでは続きまして、女性活躍ネットワークの井中様よろしくお願いします。

<女性活躍ネットワーク 井中様>

女性活躍ネットワークっていうのは、いわゆる団体というわけではなくて県内の様々な分野の方が集まる、いわゆる女子会みたいなものですが、女性活躍課の中でいろんな提言というわけではありませんけど、とにかくいろんなしゃべりをしていろんなことを話す会で、様々な分野でそれなりに活躍していращやる方が、ある会で私はこの代表というわけではありませんので、一応この女性活躍っていう、観点から1つ申し上げれば、やはり今、問題になってるのがアンコンシャス・バイアスっていいですかやはり社会規範とかそういう思い込みによって、若い女性は、何か窮屈だとか、そういうことを感じて、都会に出たらもう帰ってこないっていうふうに今言われています。

実際、私は鳥取県出身ではありませんが、山口県出身、田舎出身で、そういう古い街を早く出たい早く出たいと、大学を機に18歳で家を出て、結局、ぐるぐる色んなところに行って、今、鳥取県にずっと住んでおります。鳥取県はもう本当に住みやすいと思って、私もいろんなところに行きましたが、鳥取県は大変住みやすく子育てしやすいと本当に思っております。そういった社会規範という歴史は長いので、簡単に変わるわけではありませんが、この前も、会のメンバーがやはり男性の育休についても、女性の活躍のことについても、とにかく言い続けることだと、簡単に変わることはないので、とにかく声を上げて、言い続けることが大事だというふうに、メンバーからも言っておられて、まさしくそうだと思います。なかなか簡単に解決することではないからこそ、諦めるのではなく、言い続けることが大切だというふうに思っております。

そして男性の育休に関してですが、私の会社は建設業でとっても男性社会と言われて、女性も実は最近少し増えてきたんですが、それでも育休を取るっていう世代がほとんどいなかったのが、最近、増えるようになりました。誰かがひとりとりと次の世代の方が増えてきて、誰かが、初めに何かをするということでだんだん続いてくるものだと思っております。

あと育休のパーセンテージをあげるっていうそれだけを、注目するのは、あくまでも、男性の育休休暇っていうのは手段であると、皆さん、認識していただきたいと思います。目的は、やっぱり育児を含む家事労働時間の男女格差の解消とか、女性の所得向上だということを認識していろんな企画を進めていただきたいと思います。以上です。

<進行（前田政策戦略局長）>

ありがとうございます。それでは続きまして、鳥取県観光連盟の縫谷様お願いいたします。

<鳥取県観光連盟 縫谷様>

鳥取県観光連盟の縫谷と申します。

私からは鳥取県観光連盟として、映画・ドラマのロケ地の観光拠点を活用した観光誘客であったりとか、県立美術館を拠点としたアート・文化振興っていうのは、すごく最近熱いといひますか、すごく注目されてる部分ではあると思ひておりますので、それが盛り込まれてるってことに対してはすごくポジティブな印象を持っています。同時に、やはりこちらのPRはもちろんしてはいるんですけども、今回の一番の議題になっている人口減少に歯止めをかけて地方創生を実現するっていう部分では、やはり観光客を誘客するっていうのと乖離みたいなものもあるかなというふうに思ひていて、観光地として人気が出るっていうことと人口増加っていうのは必ずしもイコールではない部分もあるのかなと思ひております。

その中で、まず新規の移住者であったりとかっていうのに、観光が寄与できる部分って何かと思ひたときに、今、例えば観光連盟の方で、トリパスっていうスタンプラリーをさせていただいてるんですが、コンセプトとして2度3度鳥取に足を運んでいただくってことで、かなりスタンプの数も多いようなスタンプラリーになっておりまして、一度ではなかなかその地域の人や、素の部分に触れるっていうのは難しいことも多くあると思ひます。皆さんの旅行の経験とかでもあると思ひますが、ザ・観光地というところに行くことが多いと思うので、2度3度でよりニッチな部分に訪れていただくことで、素の鳥取っていう部分を知っていただく機会になるんじゃないかなと思ひております。

ここからは、自分の主観みたいな部分が入ってしまうんですが、若者や女性が戻らないという現状に関しては、まず若者の観点でいうと、私も18で鳥取を1回でまして、昨年戻って参りまして、やはり地元の魅力を知らずに出ていってしまうっていうことがよくあるのかなと思ひています。私も観光連盟で働かせていただくようになって初めて、ああ意外と鳥取にもいいところあるじゃんと思ひていまして、地元を離れたときにまわりの人と話したときは「鳥取って砂丘とスタバくらいでしょ」と言われても、「えへへ」くらいだったんですけど、今だったらすごく語れるようになった自分があると思ひていて、やはり出て行く前に高校生までの間に、鳥取県の魅力に触れて、県外で語れるようになることは、本人が帰ってくる、帰ってこないにかかわらず素敵なことではないかなと思ひてますし、それが結果的に帰ってくる選択肢が生まれる1つのきっかけにもなるのかなというふうに思ひています。また、女性に関してなんですけれども、やはり結婚を機に人生が変わるきっかけがあると思ひていて、県内出身の女性の方が帰ってきてもらうというよりは、男性の方が結婚されて、地元に戻ってきてもらうということで、外から女性にきてもらうという見方もできるのかなと思ひています。

<進行（前田政策戦略局長）>

引き続き、多くの皆様方からご意見をちょうだいしたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。会場の皆様よろしいでしょうか。商工会議所連合会の中村さんいかがでしょうか。

お願いできますでしょうか。

<鳥取県商工会議所連合会 中村地域経済部市域振興課課長補佐>

県商工会議所連合会、所属は鳥取商工会議所の中村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まだまだこの会議について勉強不足のため、失礼な発言をしてしまうかもしれません。

商工会議所の方としても、地元の産業をいかに盛り上げていけるかということに力を入れておりますし、観光の方にも力を入れているところです。

また限られた業種ではありますが、小学生に向けてもその業界の魅力を伝えていくような事業にも取り組んでおります。

個人的な意見ですが、今回の会議の方向性のところで、若者・女性に選ばれる地域づくりと安心して住み続けられるふるさとづくりとありますが、結局のところ、鳥取県民、皆さんが住み良くなるといいよねというような内容になるのかなと思います。若者・女性というのも、結構幅広いものとなるため、私もどういうところに注目して発言をしたらいいかというところで考えたときに、ここでいう若者とはどういう人のことなんだろう、女性も、若い方から年配の方までいらっしゃるし…となってしまいます。

何かこう共有してイメージできるものを持って対策に取り組んでいけたらなというふうに思いました。

<進行（前田政策戦略局長）>

ありがとうございました。そうしますと、座席順で恐縮ですが、商工会連合会の濱本様はいかがでしょう。

<鳥取県商工会連合会 濱本産業支援部経営企画課係長>

はい、ありがとうございました。

鳥取県商工会連合会では、県庁のサイクルツーリズム振興室さんと連携をしながら、サイクルツーリズムに取り組んでのお客様を獲得して、観光客の誘致や、それにまつわる産業の創出ということで人口減少の歯止めに貢献したいと考えておりまして、これは商工会連合会だけではできないことですので、ここにおられる多くの方と連携できたらなと考えているのと、先ほど日本海新聞社の井上さんが言われていた、駅を核としたまちづくりの中の2次交通としてやはりサイクルが使えると、より地域をめぐっていただいて、リピーターの獲得になって、移住定住にも貢献できるのではないかなと考えておりますので、ぜひここにおられる皆様と連携しながら、鳥取に住みよい地域を一緒につくれたらなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

<進行（前田政策戦略局長）>

ありがとうございます。はい。それでは中小企業団体中央会の柳原様いかがでしょうか。

<鳥取県中小企業団体中央会 柳原係長>

鳥取県の中央会柳原と申します。

我々の方は製造業さんや、サービス業・卸・小売りなどなどそういった事業者さんが集まった事業協同組合や商店街の交互支援をさせていただいてる支援機関でございます。

やっぱり皆様ご承知の通り、やっぱりそういった方々のお話を聞く中で、まず一番に上がってくるのはやっぱり人手不足という課題が共通認識としてあります。その中である組合さんの中では、組合がその頭になってその傘下の組合員企業さんの求人情報を1つにまとめて、折り込みチラシをされて、全部が全部、成果が繋がったってわけじゃないんですけども、数社、採用に繋がったというような例もあるそうです。

選ばれる地方というふうにあるんですけども、選ばれるためにはまずやっぱり、その企業を知ってもらうことが大事なのかなっていうふうにも思っております。もちろん、その採用活動については企業さんの自助努力という部分もあるんですけども、小さい企業さんはやっぱりハローワークさんに出してそのままお終いっていうこともあると思いますんで、やっぱり企業さんの名前だけでも、企業認知度向上に繋がるような支援という部分を、中央会もそうですし、ここにいる皆様と一緒に何かそういった小さな企業さんたちのですね、認知度向上に繋がるような支援ができればいいなというふうに思っております。以上です。

<進行（前田政策戦略局長）>

ありがとうございます。続きまして、漁業協同組合の岡部様お願いいたします。

<鳥取県漁業協同組合 岡部漁政指導課長>

鳥取県漁業協同組合の漁政指導課の岡部と申します。

漁業協同組合では、人口増加に対する取り組みとして、県内外問わず『漁師になりたい』という方に、県市町村と連携し、漁業研修の補助などを利用して、漁業者の増加に努めております。

移住されてきた方々もどんどん増えているのですが、漁業を引退される方の増加率の方が高く、そういった増加効果があるかいうとそうとも言えません。自分の子供達に漁業を続けさせたいという漁業者が減ってきています。漁業の魅力っていうものが以前に比べて落ちてきているということがあります。

その要因としましては、昔に比べて資材とか燃油価格が上がり、経費が多く掛かっているのに魚価の方が変わってないもしくは下がっているというところもあります。

漁業の魅力っていうものが低下し、実際に従事しておられる方にとって、『収入の安定したサラリーマンの方をさせた方が良い』と考える漁業者も多いようです。本当は魅力のある職種なので、その魅力をもっと広く、皆様にお伝えすること進めていきたいと思えます。

また、人口の増加とは言えないですが、交流人口の増加を目指し、鳥取に来てくださった方から『鳥取の魚は美味しい、鳥取に住みたい』と思ってもらえるような方も増やしていきたいと思っております。この鳥取県では美味しい多種多様な魚介類が漁獲をされるので、県産魚のPRに今後努めていながら、漁業のことをもっと広く、よく知っていただけたらなと思っております。以上です。

<進行（前田政策戦略局長）>

はい。ありがとうございました。続きまして、森林組合連合会の鍋濱様お願いいたします。

<鳥取県森林組合連合会 鍋濱総務部長>

はい。鳥取県森林組合連合会総務部の鍋濱と申します。よろしくお願いいたします。

林業の話でさせていただこうかと思えます。他の業界様もだと思えますが、林業も全然人手が足りなくて、どんどん従事者が減ったりしております。若い方が、いろいろな国とか県の補助事業とかいただいているおかげもありまして、ある程度は増えてきていますが、まだまだ人材確保が必要な業界であります。

そういったところで、今回のお話、連携とか実践ということで県の方から、いろいろな助成をいただいております、IJU 相談会とか定住機構さんがされているのに参加させていただいたりして、その場で町村の方とかともお話をさせていただいて、田舎では農業もあるでしょうけど林業もありますという、一次産業がありますみたいな感じで林業の方もお話をさせていただきませんかみたいな、そういったところで、いろいろな方にお声掛けさせていただいて、お話をさせていただいたりとかですね、それで鳥取県に来ていただいたりとかもですし、それ以外も鳥取県で林業体験ということでですね、全国からですね参加者を募りまして、1泊2日とか2泊3日で、林業の体験、実際に山で木を伐ったりとか、県さんの方からの委託をいただいた事業でさせていただいております、その中で、宿泊されるので、温泉があるところとか、美味しいものが食べられるところとかに泊まさせていただいて、そのまま林業に就業していただくことに繋がることもあるんですけども、繋がらなくても、とりあえず鳥取についてイメージを持っていただいて、また鳥取に来ていただけるような、そういったようなイベントといいますか、形でさせていただいたりしております。

それ以外にも、県内の就業者を確保するためにということで、事業体に集まっていたいて就業相談会とかさせていただいておりますけれども、それもなかなか来ていただけないものでして、ちょっと内部で話して、検討してるだけなんですけど、まだ今後の話ですけど農協さんと漁協さんとか一緒に、一次産業の就業相談会みたいなものを協力してできないかなとか、これただのアイデアですけど、婚活イベントみたいなのを一次産業同士でやってみてもいいのかなみたいなのを、ちょっとうちの方だけなんですけど、考えさせていただいたりとか、そういった体で連携できればなというふうに考えさせていただいております。以上です。

<進行（前田政策戦略局長）>

はい。ありがとうございました。続きまして境港市の浜田様お願いいたします。

<境港市 浜田総務部次長>

はい。失礼いたします。境港市総合政策課の浜田といいます。

私の方からは本市で今年力を入れている取り組みについて紹介させていただきたいと思っています。

本年度はですね、人口減少対策、移住定住対策に力を入れていこうとして、若者や女性に選ばれるまちを目指していこうとして取り組みを進めています。商工会議所さんと連携しまして、プロジェクトチームを立ち上げたところです。商工会議所の会員さん、また、青年会議所さん、それから、移住してこられた方、移住アドバイザーなど、若者・女性の方に参加していただきまして立ち上げました。今現在、本市が、若者・女性のためにしている施策というのを、今、少しでも役に立っているだろうという施策をピックアップしておりまして、それを会議にかけまして、それぞれの委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思いますと思っています。実際に、その方のためになっているのか、なっていないからどうすればいいのか、そういったことをお聞きしながら、ブラッシュアップをしていきたいなと考えているところであります。

また、新しいものも生み出していかなきゃいけないと思っておりますので、本日いろんなご意見、また、状況等を教えていただきましたので、そういったことを参考に、来年度以降、選ばれるまちになっていきたいなということで、取組を進めているところであります。簡単ですが、以上であります。

<進行（前田政策戦略局長）>

はい。ありがとうございました。続きまして、鳥取環境大学の澤田様、お願いいたします。

<公立鳥取環境大学 澤田学務課長>

公立鳥取環境大学の澤田と申します。

私どもの大学では今、学長の強い思いもあって、地域での学びを、教育研究の方ももちろんですし、学生の自主的な活動として地域に出ていく活動の支援など、あらゆるチャンネルで、学生に地域にどんどん出て行ってもらおうという取組を進めているところであります。そういったところに参加した学生の話の聞いてみると、すごく満足感が高いところのところは実感しております。本学の学生は、北は北海道から南は沖縄、また離島の方からも、満遍なく来てくれています。よそから来た学生たちにとって、鳥取が、4年間の生活を通じてすごく魅力的で、そのあとも鳥取に残りたいという学生も毎年、少なからずいるところです。

学生が大学卒業した後も、できれば、鳥取に定着してくれて、或いはいったん離れても、鳥取への愛着を感じてくれてる学生がまた戻ってきてくれたり、或いはちょっと妄想も入るんですけど、出ていった学生が、よそで暮らしてるんだけど、自分の家族を連れて鳥取にやってきて、ここはパパやママが過ごしたところなんだよって話をしてくれたり、或いはその遠く離れたまちで鳥取の魅力を熱く語ってくれたりみたいところで、学

生たちが今、うちはまだ新しい大学なので、一期生が40代半ばぐらいかなと思うんですけども、そういった鳥取ファンになった卒業生が、これから層になってくれたらいいなあなんていうことを思っています。また皆様のところにご厄介になるようなことがあるかと思いますが、これからはどんどん学生たちに、地域に出ていってもらおうと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<進行（前田政策戦略局長）>

ありがとうございました。続きまして、鳥取県私立学校協会の霜村様、お願いいたします。

<鳥取県私立学校協会 霜村様>

失礼いたします。鳥取城北高等学校の霜村と申します。

今日は、若者・女性に選ばれる魅力のある地域づくりという観点から、本校の女子生徒のことについて少しお話をさせてください。本校では勉強も部活の方も、様々な生徒たちが活躍をしており、目覚ましい成果も上げております。その中でも女子生徒の対応している女子バスケットボールですとか、ソフトボール部、それから書道部等は本当に全国でも広い活躍をしております。

その中で特に注目すべきなのが、中心にるのが、県外から来た女子生徒であるということです。今、75名の県外出身の女子生徒と本校の寮で生活をしながら、一生懸命力をつけ全国での優秀な選手になるために、成績を上げるために頑張っています。彼女たちの努力であるですとか、活躍っていうのは学校内での仲間はもちろん、地元で育つ若い人たちにも大きな影響を与えているのかなというふうに思っております。どちらかといえば内向的なタイプの多い地元出身の生徒たちも、積極的な県外生と関わる中で、みずから積極性をどんどん育んでいるような様子も見受けられます。

我が校では5つの寮を設けておりまして、この女子生徒を初め多くの寮生が生活をするんですけども、我々としては常に生徒のことを第一に考えて、寮生たちが不自由することがないように、例えば多くの費用がかかったとしても施設ですとか、寮中の設備等を隅々まで整えて、清潔で快適な部屋での生活もできるように、環境を準備しております。特に女子の場合はですね、私も娘がいるんですけどもやっぱりその保護者目線としては、子供も、保護者も安心して快適に暮らせるような、そういった居住場所というものが大切かなと思います。ですので、男子の寮以上に力を注いで環境整備を整え、生徒達も綺麗な環境で日々生活しております。

地域の皆様に温かく迎えていただきまして、応援していただいていることに大変感謝しております。

今後も鳥取県出身の生徒と同様に、全国から夢を持って鳥取にやってきて頑張ってる彼女たちを、鳥取の仲間として、大切に育て、地域の活性化に繋がるような活動を続けて参りますので、引き続き本校に対する変わらぬご理解と、さらなるご支援の方をよろしくお願い申し上げます。以上です。

<進行（前田政策戦略局長）>

はい。ありがとうございます。それでは続きまして日本銀行鳥取事務所の河本様、お願いいたします。

<日本銀行鳥取事務所 河本鳥取事務所長>

日本銀行鳥取事務所の河本と申します。私からはいただいた資料の 11 ページ 12 ページに記載してあります交付金の申請につきまして、私の理解不足の面もあるかもしれませんが、2 点ご意見申し上げさせていただければと思います。

1 点目は付加価値創出に向けた農林水産業の振興についてです。1 月の県民会議の際に、私から秋田県の稲作農家が儲かっていると、利益を上げているという話を紹介させていただきましたけども、これは最近の米価回復ってのはもちろんなんですけども、これまでの農業大規模化の取り組みによりまして、損益分岐点を下げてきたこと、すなわち利益を出しやすい環境を作ってきたことが効果をあげてきたというふうに伺っております。当地の農業に詳しい方にお話を伺いますと、鳥取県では農地はですね、畦等によりまして、小規模農家単位になっていて、大規模化を進めるにあたってはまずは区画整理が必要だという話もちょっと聞いているところでございます。今回の申請の中でもですね、必要に応じ、農地の区画整理などインフラ整備にも取り組み、利益を出しやすい環境を作る、ひいては農業法人などが新規参入しやすい環境づくりを組み込んでいただくことも、ご検討いただいたら良いのではないかとというふうに考えます。

2 点目は若者女性にも選ばれるとっとりづくり事業についてです。先日、大学生の方々とお話する機会があったんですけども、仕事の内容や給与処遇の観点から、都市圏での就職を検討されてる方が多く見られたところでございます。一方で、仮にですね、都市圏で就職した場合でも、出産や育児、実家の取得など、ライフステージが変化する際には仕事があれば、鳥取に戻ってくることも選択肢としてなり得ると、そういった意見も少なからず聞かれたところです。実際この場でも何名か、そういう方がいらっしゃったかのように思います。就職、進学で鳥取を離れた方がですね、20 代 30 代とかで戻って来やすいような環境づくり、例えばそうした方々を対象とした転職サイトを構築するとかですね、そういったこともご検討いただければ良いのかなと考えました。私からは以上です。

<進行（前田政策戦略局長）>

はい。ありがとうございます。

続きまして、鳥取銀行の松浦様お願いいたします。

<株式会社鳥取銀行 松浦ダイバーシティ推進室長>

はい。鳥取銀行ダイバーシティ推進室の松浦と申します。

私の方からは、金融機関としてというよりダイバーシティ推進の方面からお話をさせていただきたいなと思います。まず、若者女性に魅力ある地域づくりということで、働きやすい、かつ活躍できる職場というのも魅力の 1 つだなというふうに思っております。各異業種の方ですとか、各企業の意見交換とか情報交換というのも重要なんじゃないかなと、日々思っております。

先ほどこちょっとお話があった生理休暇をウェルネス休暇という名前へ変更したっていうのも、弊行のお話かなと思って伺ったんですけども、生理休暇だったりとか不妊治療だったり、そういったいろいろな健康に関するお休みを有給で取っていただけるというような制度を作ったりしております。そういった情報交換を「話彩や」とか、そういったところが活用できるのかどうかわかりませんが、できるといいなというふうに思っております。

あと男性育休についても推進をしております、ここにもパパ向けイベントっていうのが書いてあるんですけども。共働き・共育てというところを考えたところ、夫婦だけではちょっとまだ無理があるのかなあと。どちらか何かアクシデント、子供が熱を出したとかアクシデントがあったときに、どちらかにしわ寄せが起こるというようなことがあると思います。ここで、ちょっとこれは個人的な考えなんですけれども、皆さん働ける人皆さんに活躍してもらうという意味で、おじいちゃんおばあちゃんですね、特におじいちゃんが自分は今まで育児をしてこられなかったからわからないっていう方も多いかと思うので、おじいさん向けのこういったイベントを開催して、活躍していただけるといういいなというようにも考えております。それは高齢者の孤立化の防止にも繋がっていくんじゃないかなというふうに考えております。以上です。

<進行（前田政策戦略局長）>

はい。ありがとうございます。

続きまして、鳥取信用金庫中村様お願いいたします。

<鳥取信用金庫 中村副部長>

はい。鳥取信用金庫の中村と申します。

私どもは、今回、発表の時間ということで、地域産業の創出や人口減少に歯止めをかけている、連携している取り組みというものの事例を2点、ご紹介させていただきます。

まず、私ども鳥取信用金庫ではですね、日本政策金融公庫様と、あと鳥取県よろず支援拠点様と連携しまして、中小・小規模事業者を対象とした相談会を開催しております。この相談会は本気の経営改善支援ということをキャッチフレーズとして始めたもので、事業者、そして支援機関と金融機関が一堂に会して相談対応することで、スピーディーかつ、多方面での事業支援が行えるということが特徴として挙げております。もともとはコロナ禍や物価高騰などの影響による経営支援を目的として始めた取り組みですが、現在では創業相談や、創業時における事業計画や資金計画の作成も含めて、対応しております。地域産業の創出に繋がっていると思っております。

またその他、若者支援の取り組みとしまして、智頭町様と連携した大学生や高校生などの進学を目的とした智頭町専用の教育ローンの取り扱いを行っております。この教育ローンは条件を満たせば、借入れに係る利子や元金の返済を補助する仕組みのローンでありまして、進学時における県外などへの人口流出を、就職時でUターンにつなげ、人口減少に歯止めをかける取り組みとなっております。毎年、対象となる高校3年生や中学3年生のお子さんがいらっしゃる保護者の方を対象とした説明会を実施しております。多くの方にご利用いただいている商品となっております。

当金庫では引き続き関係機関様と連携した課題解決に取り組んで参りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

<進行（前田政策戦略局長）>

はい。ありがとうございます。

それでは続きまして、日本海テレビジョンの仲子様お願いできますでしょうか。

<日本海テレビジョン放送株式会社 仲子様>

はい。日本海テレビの仲子と申します。

弊社はコロナ禍に、新しい部署で地域連携室という部署を立ち上げまして、要はテレビCMだけじゃなくて、もっと地域の中に入って新しいビジネスが、テレビ局としてできないかというのを模索している、今もその最中なんですけれども。地域が衰退したら、私たちの仕事もないということで、発信だけじゃなくて様々な視点で関わるお仕事を作ればなと思っております。今回こういった座組でいろんな方々と繋がる機会をいただきましたので、何か、連携できることがあればぜひ一緒にできればと思っております。

また報道という立場では肯定的にも批判的にも、いろんな方の世論を巻き込んで、事業を、より理解してもらえるように、伝えることができるのかなと思っております。それから、そうですね日々の取材、放送を通じて、ここにおられる事業者、様々な方々と繋がりを持っているという面もありますので、我々が間に入ることで連携を促進するような役割も果たせるかと思っております。それから情報発信という面では広く機運醸成というところには貢献できると思いますし、これもコロナ禍なんですけれどもWEBメディアを弊社運用しておりますので、若者、女性、県外向けなど、発信に携わることができると思います。でき上がったものをPRしてって言われるよりかは、座組に最初から入ってて、より伝わるにはこうした方がいいみたいな提案ができるのかなと思いますので、この事業も、そういった形で関わらせていただければと思っております。以上です。

<進行（前田政策戦略局長）>

はい。ありがとうございます。

続きまして、山陰放送の小椋様お願いいたします。

<株式会社山陰放送 小椋鳥取支社長>

山陰放送鳥取支社長しております小椋と申します。

テレビ局続きであれなんですけれども、私どもも同じように、テレビそれからラジオ、そして今でいうとデジタルメディアなどの展開をしておりますは、情報発信というところで、いろいろご協力をできるのかなというところではありますけれども、その中で個人的にもちょっと思ってるんですけどポイント2つほどがソフト面での提案じゃないんですけれども、まず1つはやはり色んなイベントがあったり、取り組みがある中で、単発で終わったりとかですね、長期に続いていかないみたいな中で、大事だと思うのが人をどう繋いでいってその繋がりをどうその先に生かしていくかというところかなと。人を長期的にどうつないでいくか。そういう視点は、色んなやられる事業の中でも必要になってくる

のかなと思うんですけれども、一例で言うと、私ども、これも中々まだ広がっていないまだちょっと小さな取り組みではありますけど、ウーマンズラボという、ラジオとそれからネットを融合させたような取り組みでありまして、弊社のアナウンサー、それから山陰両県で活躍する子育て、ファッション、美容、いろんな分野のインフルエンサー的な人を繋いで、オンラインサロンを中心に、人を繋ぐというところを、2年ほどやらせてもらっております。ちょっと民間企業でもありまして有料のサロンというところで、なかなか、大きく広がりきっていないところではありますけれども最近では、リアルイベントなどにも参加をしたりして、少しずつそういうものを広げていくというところ。それが多分、今日もこのように、たくさんの機関の方がお集まりですけれども、連携できると、大きな1つの輪になり、それが色んな施策をしていく上ではやっぱり、重要な力になっていくのかなあというふうに思いまして、例えば本当に、色んなこれから取り組まれる事業の中でも、そういう視点というのは、評価の中にも入れていっていいのかなというふうには、長期に人をどう繋いでいくかというような視点ですね。

それから、もう1点、やっぱりリアルが非常に厳しい中で、すぐにすぐに何事も変わるわけではない中でやっぱりイメージ戦略は大事ではないかなというふうに考えております。そこでちょっとわかりやすいキーワードみたいなものを1つ持って、いろんな事業をそこに向かって展開していくというような、そういう施策も大事かなと思って、個人的には今、いろんな誹謗中傷、厳しい意見なんかもネット上では散乱してるような状況の中で、例えば「幸福感」みたいなキーワードで、県がいろんな施策の中にその幸福感をどう打ち出していくかみたいな、ビジョンをそれぞれに仕込んでいって、鳥取県って、何かこの取り組みをしたらこんな幸せが見えるとかって、そういう幸せの見える化みたいなものが、いろんな施策を通じて総合的にできていくと、鳥取県って住むと幸せになれるのかもみたいな、多分そういうイメージが先行して、それがリアルに繋がって人が移住してくるとか、住んでみたいとか、それが例えば子育ての部分だったり、高齢者の現状の部分だったり、いろんな部門があると思うんですけれども、それが総合的にそういう統一の、例えば幸福感みたいなテーマで発信をしていくというようなことができないかなとちょっとそれぞれ考えておりまして、そういったところは放送局が協力できるところではないかというふうに思っておりますので、提言も含めてちょっとご紹介をさせていただきました。

<進行（前田政策戦略局長）>

はい。ありがとうございます。

それでは鳥取県連合婦人会より森下様お願いできますでしょうか。

<鳥取県連合婦人会 森下常任委員>

鳥取県連合婦人会、並びに八頭町連合婦人会の会長をしております森下といいます。よろしく願いいたします。

婦人会の方では、やっぱり情報発信の重要性ということ、知ることの大切さということ念頭に置きまして、活動しております。ただ、各種団体の活動の低迷、コミュニケーション不足、それから話し掛ける内容等にも気をつかい、理解がなかなか深めていけない。理解が深めていけると、第2段階に参加していただく足が遠のいてしまう。こうい

う参加人数の減少についても、大きな問題として、私たちも取り組んでおりますが、各種団体の方との連携を図りながら、楽しく活動ができるようなことに繋がっていききたいなあというふうに思いながら、活動しております。

今日はたくさんの方が参加していただいておりますので、婦人会の方でも、協力してさせていただいて、鳥取をより良くしていきたいなというふうには思っております。よろしくをお願いいたします。

<進行（前田政策戦略局長）>

はい。ありがとうございます。

続きまして、ふるさと鳥取県定住機構より、太田様お願いいたします。

<ふるさと鳥取県定住機構 大田就職・定住推進室長>

はい。ふるさと鳥取県定住機構の大田と申します。

私どもの方では、移住コーディネーター就職コーディネーターを県外にも配置しまして、移住定住の促進を日頃から図っているところです。また学生の支援というところに、重きを置いて事業を実施しているところでもあります。

私の方はその中で就職の方の担当をしております。I J Uターンの方のご支援等もさせていただいているところですが、私のご支援してる方のほとんどが、奥様が鳥取県の出身で、男性の方が県外出身でついてきてくれるパターン、こちらが8割ぐらいになっています。なので今、男性が女性を連れて帰ってくるパターンって非常に少なくなっています。ですので、女性はやはり、鳥取で自分が育って子育てをするには鳥取は非常にしやすいということを実感している。都会で子育てをしてみたんだけど電車移動だったり、ぎゅうぎゅう詰めの中だったり、公園に行ったりしてもすごく人が多かったり、保育園もビルの中であつたりというようなところを体感される中でおそらく、鳥取での子育てっていうのを選ばれるのかなというふうに思っています。なのでこのあたりをターゲットにした施策とかこういった情報発信をすることで、女性に選ばれるっていうところで女性並びに家族に選ばれる鳥取県っていうのは推進していけるのではないかなというふうに思っております。

また、どうしても給与が下がるところがありますのでご主人様の方のご要望で多いのが、副業ですね。給与を補填するための副業、あとリモートワーク、子育てをやっぱりしたいのでリモートワークを導入している企業を紹介して欲しいみたいなことも非常に多い、ということがありますので今日いろんな産業界の方なんかもらっしゃいますので、企業様の方におかれましてそういったところを促進していただけると、非常にこちらとしてもご紹介がしやすくなって嬉しいなというふうに思うところです。

また今年度から高校生との繋がりっていうのも県の委託事業で始まりました。先ほど田淵様の方からもありましたが、高校生と企業様を結ぶ事業をするようになっていきますので、またその辺もどっちをどう使うとか上手に連携していけたらいいのかなというふうに思ってお聞きしたところです。

あと最後に、保護者様の影響が非常に学生にとっては大きいです。保護者様にとって、まず良い企業がたくさん鳥取にはあるってことを知っていただくっていうところが非常に

重要だと考えております。こういった県民会議で出た意見の取りまとめの中でも、この場で発表するだけでなく、全県にお住まいの保護者さんへもしっかり県の方から、また今日放送局の方もいらっしゃいますので、ぜひ、本当に企業無いと思われている保護者さん多いので、そうじゃないよっていうところを発信していっていくように、連携していただければと思います。以上です。

＜進行（前田政策戦略局長）＞

はい。ありがとうございます。

続きまして、とっとり県民活動活性化センターの寺坂様お願いいたします。

＜公益財団法人とっとり県民活動活性化センター 寺坂次長＞

とっとり県民活動活性化センターの次長をしております寺坂です。

当センターのほうは地域で活動されている団体さんの支援をしている財団でして、最近の傾向としては、今までは分野ごとのNPO法人さんのようなNPOの活動をされてる方たちの相談が多かったんですが、コロナのあたりからだんだん地域からの相談が増えています。特にコロナの時期には、地域の中で集まることができなくて、皆さんが連絡を取れないみたいな状況があって、そういう相談も増えておりました。高齢化も進み、NPOの中でもやっぱり次を継いでくれる方がいないという、企業もそうですけども、同じような状況が起こっておりまして、地域の中にも担い手がいないっていうのは、よく聞く話になっております。

そういった中で、若者や女性の目線っていうところをちょっとお話しすると、若者については鳥大様とか環境大様とも授業やプロジェクトの中で連携させていただいて、地域の中にある団体等を紹介して、学生や若者を地域に行ってもらう機会っていうのを作るようなことのお手伝いをさせていただいてます。ただその中で、学生等が入るときに、学生の都合もわからずに、団体さんの方もうどうしていいかわからない、行く方も行きづらいみたいな状況が起きているということもありますので、当センターの中ではその中に入って、双方がうまくコミュニケーションがとれるように配慮できるようなことを注意しながら日々活動しているというところです。

女性に関してもアンコンシャス・バイアスとかについても、やはり当事者だけではなくて、その関係者、周りの人、受入れる側の意識っていうのもやはりないと、ただ行くだけっていても、それで終わってしまうっていうこともありますので、そういう当事者以外の周りの受け入れ体制と理解っていうものを進めていくっていうところが非常に重要になっていくのではないかなと思います。そういった意味で、前にお話された方もおっしゃってましたけれども、言い続けること、またそういった細かいところで目にとまらないような配慮も、少しずつずっと続けていこうというのを当センターの方でも、継続していきたいかなというふうに思っております。以上です。

＜進行（前田政策戦略局長）＞

はい。ありがとうございました。

それではこのオンラインでご参加の皆様の中で、特にご発言はございませんでしょうか。よろしゅうございますか。大変恐縮です、時間の都合上、ひとまずご発言はここまでということにさせていただきたいと存じます。

なお本日、資料の中にですね、この白い紙をお配りしております。意見提案書、後日提出用ということで、白い紙1枚用意しておりますので、まだまだご発言足りないことあると思いますし、県に聞いてみたいこととかあると思いますので、これは後日、6月6日までいただければというふうに存じますので、何でも結構でございます。頂戴できればと存じます。

それでは、これまでの発言等を踏まえまして、中原統轄監より、総括的なコメントをお願いいたします。

<中原統轄監>

皆様本日は活発なご意見いただきまして本当にありがとうございます。非常にたくさんのご意見をいただきました。今日この場でちょっと1つひとつご紹介すると、時間の関係もございますので申し上げますが、今日いただいたご意見を県の様々な活動の方にも生かすとともに、また、こういった形で展開していくかっていうのを皆様の方にもご相談しつつ進めていきたいと思っております。

特に最初に、清水先生からお話ありました鳥大の地域連携プラットフォームとの連携ですね、この場と重ね合わせるように、連携していけるんじゃないかというお話もありましたので、そういった連携によっても寄りこの場が充実したものになっていくと思いますので、是非ともよろしくをお願いいたします。

それから様々多くご意見いただきまして、お聞きしただけでも、各団体の皆様の取り組みが、相互に連携できるのではないかとか、または、例えば一次産業のグループの皆様で網掛けのように事業が展開できるのではないかとか、様々な可能性が見えてきたかと思えます。少し、今日いただいたご意見、整理しまして、またこちらも考えていきたいと思えます。

また今年度、若者・女性にも選ばれる地域づくり、魅力ある地域づくりということで、柱に立っておりますけれど、その意見を聞いていく対象として、今日多くの皆様から、学生さんの話も出ました。県外から来ていらっしゃる学生さん、それから県外に出られてる学生さん、それから、移住で、ご本人が女性の場合も男性の場合もあるかと思えますけれど、特に女性が引っ張ってこられるというようなケースが8割ということで、実際の数字を聞いてちょっと新鮮な驚きがありました。そういった、外の視点を持っていらっしゃる方のご意見も、様々これから伺って活かしていきたいと考えております。今日は本当に様々なご意見ありがとうございます。これからも引き続きよろしくをお願いいたします。ありがとうございます。

<進行（前田政策戦略局長）>

はい。それでは最後に閉会にあたりまして、当本部の令和の改新戦略本部の櫻井本部長より閉会の挨拶をお願いいたします。

＜閉会あいさつ（櫻井令和の改新戦略本部長）＞

はい本日は産官学金労言士、また若者、女性の代表の皆様方にお集まりをいただきまして本当に活発にご意見をいただきましたことを改めてお礼を申し上げたいと思います。

本日いただきましたご意見ご提案など、先ほど中原の方からも申し上げましたとおり、県庁内ですね、各プロジェクトチームに還元しまして、今後の施策展開に生かしていきたいと思いますし、またフェムテックや農業、アンコンシャス・バイアス、様々、今我々が検討しております新地方創生交付金、第二世代交付金の事業についてのご意見についても、これを反映するように、検討していきたいというふうに考えております。

石破総理も申し上げておりますけれども、やりっ放しの行政、頼りっ放しの民間、それから無関心の住民、これが三位一体になると、地方創生は失敗するというふうにおっしゃっておりますけれども、我々は行政として、しっかり、このような場で耳を傾けていき、また今日も様々な民間同士の連携の話もございましたけれども、自立して民間の方でも動いていく。また、アンコンシャス・バイアス、地域の中でのいろいろな課題を、県民みんなでですね、自分ごととしてとらえてより良くしていくというような、こういった、逆の三位一体を目指して、皆さんで県民運動として進めていきたいと考えております。

この幹事会、実務者の幹事会というのをきっかけに、さらにこれを進めていきたいというふうに存じておりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

＜進行（前田政策戦略局長）＞

ありがとうございました。

それでは以上をもちまして、鳥取県「令和の改新」県民会議 連携と実践の促進に向けた幹事会を閉じさせていただきます。

ご参加の皆様、本日は誠にありがとうございました。

（以上）